

(平成24年度実施分)

大学機関別選択評価

# 選 択 評 価 事 項

平成23年3月

独立行政法人  
大学評価・学位授与機構



## はじめに

この「選択評価事項」は、独立行政法人大学評価・学位授与機構（以下「機構」という。）が「大学機関別選択評価」実施大綱に基づいて実施する評価に関するものです。選択評価事項は、「研究活動の状況」、及び「地域貢献活動の状況」に関する2つの事項から構成されています。大学は申請時に評価を希望する1つ又は複数の事項を選択します。

それぞれの事項は、水準判定を加味しつつ、その事項に関わる各大学が有する目的の達成状況等の評価を実施します。評価は、原則として大学全体を単位として行いますが、事項によっては、学部・研究科等ごとの分析、整理も踏まえた上で、判断を行う必要があるものもあります。

各事項は、1つ又はいくつかの内容に規定されており、事項を設定した意義や背景等を説明する「趣旨」が記述されています。さらに、それらの内容を踏まえ、それぞれの事項に関する活動の状況を分析するための「基本的な観点」を設けています。各大学には、原則として、全ての基本的な観点到に係る状況を分析、整理することが求められます。また、独自の観点を各大学が設定して、その状況を分析することも可能です。評価は、基本的な観点及び大学が設定した観点的分析状況を総合した上で、事項ごとに行われます。

本評価においては、各大学に対し、それぞれの事項に関する活動についての目的の記述を求めます。大学における自己評価や機構における評価は、これらの目的に照らして行われることになります。



## 目 次

選択評価事項A	研究活動の状況・・・・・・・・・・・・・・・・	1
選択評価事項B	地域貢献活動の状況・・・・・・・・・・・・・・・・	3

## 選択評価事項A 研究活動の状況

A-1 大学の目的に照らして、研究活動を実施するために必要な体制が適切に整備され、機能していること。

A-2 大学の目的に照らして、研究活動が活発に行われており、研究の成果が上がっていること。

### 趣旨

大学は優れた人材の育成を担うとともに、幅広い研究活動によって、広く社会・経済・文化の発展を支える役割を社会から期待されています。

大学が研究活動を継続して活発に進めるためには、研究を実施する体制及びその支援・推進を行う体制の整備、研究推進の施策の実施が不可欠です。同時に、大学は、現在の研究活動や研究成果の状況及び社会・経済・文化の領域への効果についての確に把握し、研究活動の改善や向上を図り、それらを社会に対して広く示していくことを求められています。

選択評価事項Aは、このような大学の研究活動に関する全般的状況の評価を希望する大学に対応するために設けられているものです。

この選択評価事項では、まず、研究活動に関する大学の目的に照らして、研究を実施する体制、それを支援・推進する体制、研究推進のための施策の実施状況（組織内の資源配分に関する措置や研究に関わる規定の策定等）、研究活動のシステムが、それぞれ適切に整備され、機能しているかを評価します。

さらに、成果物の刊行、共同研究の状況、競争的研究資金への応募状況等を踏まえた研究活動の活発さ、競争的研究資金の獲得状況、外部評価や受賞状況等から判断した研究の質の状況、研究成果の活用状況等の分析から明らかにされた社会・経済・文化的な貢献について、それぞれ大学の目的に照らして評価します。

なお、ここで言う研究活動とは、基礎研究や応用研究等に限らず、広く教員の創造的活動を指します。

## 基本的な観点

- A-1-① 研究の実施体制及び支援・推進体制が適切に整備され、機能しているか。
  - A-1-② 研究活動に関する施策が適切に定められ、実施されているか。
  - A-1-③ 研究活動の質の向上のために研究活動の状況を検証し、問題点等を改善するための取組が行われているか。
- 
- A-2-① 研究活動の実施状況から判断して、研究活動が活発に行われているか。
  - A-2-② 研究活動の成果の質を示す実績から判断して、研究の質が確保されているか。
  - A-2-③ 社会・経済・文化の領域における研究成果の活用状況や関連組織・団体からの評価等から判断して、社会・経済・文化の発展に資する研究が行われているか。

## 選択評価事項B 地域貢献活動の状況

B-1 大学の目的に照らして、地域貢献活動が適切に行われ、成果を上げていること。

### 趣旨

大学は、正規課程の学生に対して教育活動を実施し、優れた人材を育成するとともに、研究活動を行い、その成果を研究論文・著書・作品等として社会に提供することが求められています。近年では、このような教育・研究活動に加えて、大学の有する知的資源を様々な形で活用し、より開かれた大学として、社会に貢献することが求められるようになってきています。選択評価事項Bにおいては、このような大学の社会貢献活動、とりわけ、地域貢献活動について評価します。

地域貢献活動としては、公開講座、資格関係の講座、各種の研修やセミナーの開設等の正規課程の学生以外への教育サービスのほか、博物館等の公開、図書館開放のような学習機会の提供等が考えられます。また、産業界との協力による地域産業の振興への寄与や、国・地方公共団体・民間団体との連携による地域社会づくりへの参画等も考えられます。

大学によっては、このような地域貢献活動を大学の重要な目的の1つとして位置付けている場合もありますので、そのことが大学の目的に明示されていれば、本評価事項の評価対象とすることができます。

この選択評価事項では、地域貢献活動に関わる目的の達成状況について、目的・計画の策定と公表・周知、実際の活動内容や方法の適切性、活動の成果、改善のためのシステム等の観点から評価を行います。



## 基本的な観点

- B-1-① 大学の地域貢献活動の目的に照らして、目的を達成するためにふさわしい計画や具体的方針が定められているか。また、これらの目的と計画が適切に公表・周知されているか。
- B-1-② 計画に基づいた活動が適切に実施されているか。
- B-1-③ 活動の実績及び活動への参加者等の満足度等から判断して、活動の成果が上がっているか。
- B-1-④ 改善のための取組が行われているか。





独立行政法人

大学評価・学位授与機構

〒187-8587

東京都小平市学園西町1-29-1

TEL / 042-307-1647

URL / <http://www.niad.ac.jp/>